流通とＳＣ・私の視点

2013 年 1 月 20 日

視点(1683)

（まちづくりと都市構造編）

ポートランドの高い評価の真髄（その１）!!

― ポートランドは 21 世紀型のニューモダン都市 ―

「オレゴン州ポートランド市は 21 世紀型都市」として評価されています。そこで、流通やＳＣの上位概念である**「流通経済」**（流通・小売業・ＳＣの視点から上位概念であるマクロ経済を体系づける概念論）からポートランドの素晴らしさの真髄を解説いたします（六車流：マーケティング理論）。

私がポートランドを高く評価するのは「住民が住みやすい都市№１」の都市であると感じるからです。**住民にとっての住みやすさは「住民が自慢する都市」（いいことろに住んでいるね!!と他人から言われる都市）及び「住民が住みたくなる都市」（生活するのに居心地感の良い都市）で表現されます。**

この住民が自慢する都市や住民が住みやすい都市は、その時代の経済の発展レベルによって異なります。それゆえに､それぞれの国の経済レベルによって住民の住みやすさはそれぞれの国で異なることになります。ただ、動物のような本能的・絶対的な住みやすさは存在しますが、我々の経済レベルや社会レベルによって異なる相対的住みやすさが存在することは事実です。

都市の発展レベルを４つの段階に分け、アメリカでの事例で示すと次のようになります。

段　階	タイプ	アメリカでの事例都市
第１段階	プレモダン都市	ルーラルの都市、地方拠点都市
第２段階	モダン都市	ニューヨーク、ロサンゼルス
第３段階	ポストモダン都市	サンフランシスコ、ワシントンＤ．Ｃ．
第４段階	ニューモダン都市	ポートランド、ボルダー

ポートランドは「ニューモダン都市」（あるいは 21 世紀型都市）の位置づけにあります。21 世紀は 20 世紀の反省の世紀と呼ばれ、18 世紀後半からの産業革命による大量生産・大量販売・大量消費の 20 世紀型の経済（モダン経済）が終焉した後の「あるべき都市」の性格を持っています。一方、20 世紀型都市（モダン都市）は「車社会に特化した産業都市としてのロサンゼルス」と「人・モノ・金を高度に集積させたエンターテインメント都市としてのニューヨーク」です。20 世紀の時代では、ニューヨークやロサンゼルスが住民にとって居心地の良い“場”でした。しかし、250 年間続いた産業革命型の経済が終焉し脱・産業革命型経済の中で、ニューヨークやロサンゼルスといった都市は必ずしも居心地の良い都市“場”にはならなくなりました。

21 世紀型都市（ニューモダン都市）づくりのための「アンチ 20 世紀」の要素は次の通りです。

①脱・車中心都市（社会）→車が基軸であるが、車以外の交通手段の社会も重視する都市

②脱・郊外中心都市（社会）→郊外が生活の基軸であるが、都心の役割も重視する都市

③脱・合理主義中心都市（社会）→経済発展にとって生産性や合理主義は基軸だが、一方に、ゆとり・スロー・なごみ等の“静”の社会を重視する都市

④脱・近代化や現代化中心都市（社会）→近代化・現代化を基軸としつつ、19 世紀以前の歴史・伝統・文化を重視する都市

⑤脱・スクラップ＆ビルド中心都市（社会）→モノの使い捨てではなく、資源の有限性とモノの大切さを重視するサスティナブル性を重視する都市（社会）

21 世紀型都市（ニューモダン都市）は上記のような脱・20 世紀型都市の性格を持った都市と言えます。この 21 世紀型都市（ニューモダン都市）と 20 世紀型都市（モダン都市）の中間の位置づけにある都市が「ポストモダン都市」であり、20 世紀型から 21 世紀型都市へ向かっている中間型都市（サンフランシスコやワシントンＤ．Ｃ．）と言うことができます。

（流通とＳＣ・私の視点 1684 へ続く）

(株)ダイナミックマーケティング社[+6]
代　表　六（む）　車（ぐるま）　秀　之

Copyright (C) Dynamic Marketing Co. Ltd. 2013All rights reserved.